

Campus News

【キャンパスニュース】

2021. **1**
Vol.57

【特集】

- 今年4月に開学30周年を迎えます
- コロナ禍の大学生活 — 後期より対面授業を再開 —
- 藤枝市に産学官連携拠点を開設しました



■ 新型コロナ対策を徹底し、大学祭を開催しました

昨年10月25日(日)に大学祭を開催しました。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1日のみの開催に短縮、参加者は在学生・保護者に限定し、規模を縮小しての開催となりましたが、お笑い芸人によるステージやサークル紹介など例年に劣らない盛り上がりとなりました。

はじまりを、つくる



静岡理科大学





学長挨拶

主体的な学びのさらなる進化を

学長 野口 博

いまだ新型コロナウイルスの終息が見えない中、感染防止対策のさらなる徹底とともに、終息後の「新しい生活様式」に対応する「新しい教育様式」の定着も目指しています。

今年度は学びのデジタル化が急激に進みました。コンピュータやインターネットの発達により、幾つかの適切なキーワード入力で簡単に情報を収集できます。中学、高校、そして大学でも、分からないことを検索し、答えを得ることで活用されているかと思います。しかし、キーワードによる検索は、既に分かっているキーワードの周辺の情報しか得られないため、視野が広がらず、ピンポイントになる傾向があります。

適切なキーワードがわからない問題を、インターネットで検索し答えを得ることは困難です。しかし、世の中にある「正解のない問題」はこれにあたることが多いです。この問題をどう発見し、解決するかが大切です。

「正解のない問題」は、幾つかの課題に切り分け、一つ一つ論理的思考力とコミュニケーションスキルや表現力などを駆使し、解決していく作業を繰り返すことで、初めて答えにたどり着くことができるのです。例えば、大学の図書館には数多くの蔵書があります。その中で、時間をかけて幅広く自分で調べ上げ、それらをノートなどに書き留めていくことが、「正解のない問題」を発見し、解決するために重要な作業です。

本学でも、「正解のない問題」を自ら解く力を育てるよう、学びの姿を変えて行きたいと思います。本年度前期のリモート授業の実績を活かし、後期の8割の対面授業の中でも、授業前後に自宅での予習・復習にしっかり取り組むことが大切です。予習で準備し、授業で確認、グループ討論などで発展させ、さらに復習することで、自らの脳に内面化し、持続的に身につけることができます。

授業への積極的参加と自宅での予習・復習で、少しずつ主体的に学ぶ工夫を凝らして行きましょう。

遠州灘

北の先端から与那国島まで、日本列島は四季折々の自然に恵まれている。四季の移ろいは古くから月、山、花に託され語られてきた。おぼろに霞む春の月、夏、山滴るなどと詩や和歌に詠まれる。袋井も秋の季節には楓の赤、銀杏の黄など、さまざま紅葉が、水の流れ、岩に生える苔と相まって、雅やかな風景となっていた。しかし、昨年は新型コロナウイルスの影響があってモミジ狩りの人出は少なかったと聞く。このようなとき、自分を癒す身近な風景を探してみませんか。私にとっては海である。海の青と空の青が重なり、そして、時間とともに変わる海の色を目にすると、平凡な情景であっても心が和んでくる。そうこうするうち、桜前線が、沖縄から北へと向かうでしょう。巡る季節、ブラボーと叫びたい。(K)



授業の紹介

■アニメーションとゲーム1

企画やコンセプトの立案から撮影・編集といった最終工程まで、一連のアニメーション制作工程を学習し、最終的に短編のオリジナルアニメーションを制作する科目です。

アニメーションは、絵が上手な人が制作するイメージが強いと思いますが、シナリオ制作や制作進行、音響などなど、絵を描くこと以外にも多くの仕事が存在しており、その1



つが欠けても良い作品は生まれてきません。そんな、様々な専門家が集結して作られるアニメーション制作の一般的な制作工程を講義と演習を通して実際に体験しながら、学習します。これにより、アニメーションを鑑賞対象としてだけでなく、静止している画を動かすことでしか表現できない情報伝達メディアとしての理解と知識、そして技術を修得します。



担当教員：情報デザイン学科 講師 松田 崇

耐震構造工学研究室 (建築学科)

おじゃまします。

「地震災害から学び、地震災害軽減に貢献するための実験的・解析的研究を行う」



地震多発地域では、地震や津波に備えて十分な耐震性能や耐津波性能を建物に付与するとともに、地震被害を総合的に軽減する必要があります。本研究室では、コンクリート系建築物の耐震性能および耐津波性能の向上を目指して、①既存建築物の耐震・耐津波性能評価手法の開発、②耐震補強・補修方法の開発、③被災建築物の被災度判定手法・残存耐震性能評価手法の開発、④新たな耐震・耐津波設計法の提案、などのテーマについて実験的・解析的研究を行っています。

研究室訪問

第45回

研究室学生からひとこと

高田 栞 さん (理工学部建築学科4年)

組積ユニットは安価であり、日本では塀として、世界各国では建築材などとして多用されています。しかし、組積造壁は他の建築形式に比べて耐震性が乏しく、地震が発生すると必ず甚大な被害を受けています。この状況を改善するため、本研究室では耐震ブロックというものを開発し、その耐震性能について実験を行いました。従来の組積ユニットに比べて高い耐震性能を有していることが確認できましたので、実用化に向けて解析などを行う予定です。

研究室担当教員

崔 琥 先生

■プロフィール

韓国出身。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了。博士(工学)。日本学術振興会外国人特別研究員、東京大学生産技術研究所助教を経て、2018年に本学建築学科に着任。建築物の耐震性能評価、耐津波性能評価に関する研究に従事。

Message for S.I.S.T. [大学へのメッセージ]

浜松いわた信用金庫 産学官連携コーディネーター
安形 秀幸さん

大学を活かしたまちづくり

弊庫は、昨年来コロナの影響を受けている地域企業の存続と雇用の維持のため、円滑な資金供給を第一に考え、企業の資金繰り支援に全力で取り組んでまいりました。そして今後におきましては、中小企業の皆様が抱えている様々な課題の解決や本業支援に徹底的に取り組み、ウイズコロナ・ポストコロナの事業展開と一緒に考えていくことが地域金融機関の果たすべき役割であると考えております。こうした中、令和3年4月には袋井市と静岡理工科大学を中心に地域の産学官が一体となって、中小企業の課題解決に取り組む「ふくろい産業イノベーションセンター」が大学内に新設される予定であり、弊庫からも職員を1名派遣させていただくこととなりました。先生方との連携の機会も大いに増えてくるものと思います。引き続き地域の中小企業支援と産業の活性化に積極的に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



今年4月に 開学30周年を迎えます

コンセプトは「1+1+1=∞」で共に未来を創る、に決定

コンセプトの意味

「1+1+1」……期間・人・活動・目標

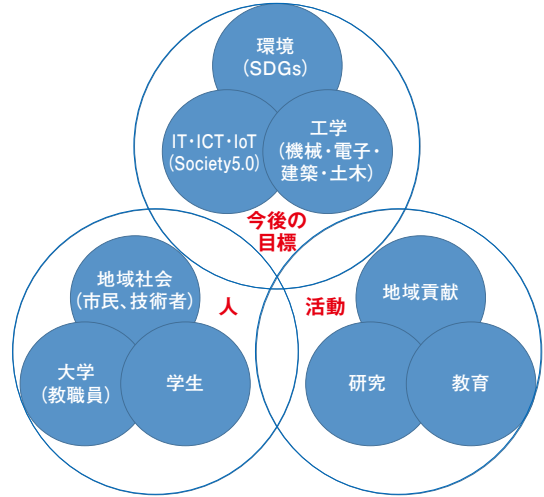
期間：30年

人：地域社会（市民、技術者）+
大学（教職員）+学生

活動：研究+教育+地域貢献

目標：環境（SDGs）+
IT・ICT・IoT（Society5.0）+
工学（機械・電子・建築）

「∞」……人材・研究力・技術・知・地域の発展



コンセプトイメージ

このコンセプトには、「開学から30年で築いた人材育成、地域貢献、研究力で、SDGsやSociety5.0などの目標達成へ、地域社会、教職員、学生とともに未来を創る」という本学の願いが込められています。

4月には大学ホームページを全面リニューアルし、30周年記念サイトを公開する予定となっております。こちらのサイトでは、30年の歴史やこれからの活動に向けた目標、記念イベントの日程などが公開される予定です。

6月4日(金)には関係者や企業の方を招待し、30周年記念式典を開催いたします。同5日(土)には基調講演者にサイエンスライターの竹内薫氏を迎え、30周年記念特別公開講座を開催いたします。どちらもご期待ください。

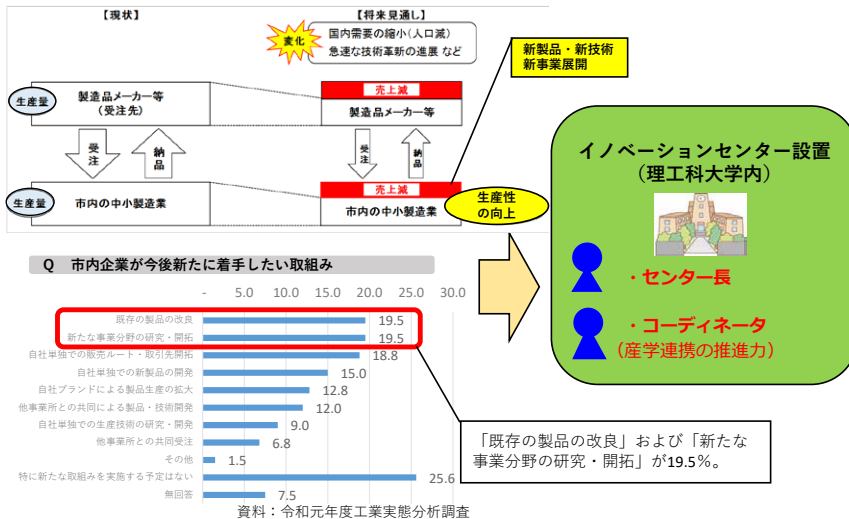
また、昨年12月10日(木)に、袋井市と共同で4月に開設する「ふくろい産業イノベーションセンター」の基本事項合意書調印式を実施しました。本センターは、袋井市と本学が中心となり、商工団体や金融機関が参画し、中小企業の技術課題の解決支援活動を行う拠点となります。

企業訪問による技術課題支援や、イノベーションの喚起など、本学の技術シーズを活かした地域産業の活性化を推進します。

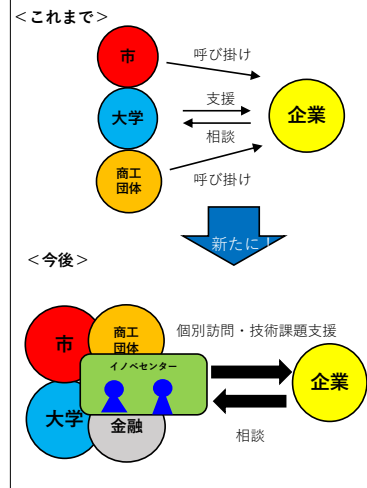


左から橋本理事長、原田袋井市長、野口学長、小笠原特任教授（センター長就任予定）

生産需要の構造的な変化イメージ



技術課題支援に向けた各機関の相関図



特集 コロナ禍の大学生生活 後期授業より対面授業を再開

昨年の前期授業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため全面的にオンライン授業で行っていましたが、9月23日(水)に開始した後期授業から、新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底し、対面授業を再開しました。

10月25日(日)には大学祭も開催。期間は従来の2日間から1日のみに短縮、参加者は在学生および保護者のみと例年より規模を縮小しての開催となりました。現在はサークル・クラブ活動も徐々に再開され、コロナ禍による「新しい生活様式」のもとでも、にぎやかなキャンパスが戻ってきています。

主な感染対策	
登校時	サーモグラフィを設置し、検温必須化
教室	収容人数の5割以下で使用し、密集防止
実験・討論を行う授業	フェイスシールドを使用し、飛沫防止
食堂	席数を半分に、席の間にアクリル板を設置
時間割	昼食時間を極力またがない時間割設定



ホームページでは、教職員や学生がコロナ禍で感じたこと・実施した対策をインタビューした特集ページを公開しています。

(<https://www.sist.ac.jp/news/covid-19-85687/>)



特集 藤枝市に産学連携拠点を開設

昨年10月27日(火)、JR藤枝駅前の複合商業施設「BiVi藤枝」1階に、サテライト拠点「学校法人静岡理工科大学 藤枝イノベーション・commons」を開設しました。本拠点は、昨年3月に藤枝市と本学園の間で締結した連携協定事業の一環として、地域産業を担う人材の育成、産学官連携などの活動拠点となります。

開所式には、橋本新平理事長、野口博学長、北村正平藤枝市長らが出席され、本拠点での活動に対する期待や抱負を語っていただきました。

開所式終了後には、社会人向けリカレント講座を実施し、機械工学科 鹿内佳人講師から「生活の場にロボットが進出するためには」と題してロボットの活用に関する講演を行いました。

11月から12月にかけてもロボット活用による自動化や、AI・ビッグデータを活用した生産性向上、問題解決のためのデザイン技法など、地域産業を担う人材育成に向けた社会人講座を連続して開催しました。聴講した技術者の方からも、その場で講演者に対し会社が抱える技術課題に関する相談がなされるなど、積極的な情報交換が行われました。



左から北村藤枝市長、橋本理事長、野口学長

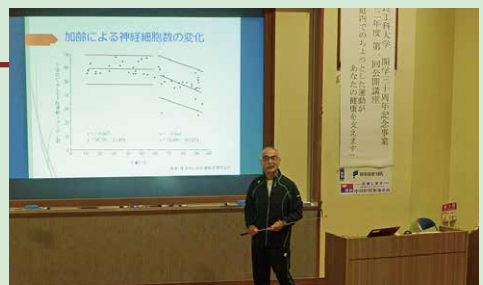
ひらめき☆ときめきサイエンス

昨年10月3日(土)と11月28日(土)に、科研費助成事業の理科体験教室イベント「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催しました。中学生を対象に物質生命科学科の南齋勉准教授から「走れ化学ロボット! いきものように走る油滴をつくろう」、小土橋陽平准教授から「温度や光で返信! 不思議なプラスチックに触れてみよう」の2テーマ、高校生を対象に機械工学科の十朱寧教授から「超音波を使って環境にやさしい燃料BDFを作ろう!」のテーマで行いました。



公開講座

昨年10月31日(土)に令和2年度第1回公開講座を開催しました。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoom配信によるオンラインでの開催となりました。情報デザイン学科・富田寿人教授から「健康づくり・福祉」をテーマに、「家庭内でのちょっとした運動があなたの健康を支えます」のタイトルで講演が行われ、家にこもりきりになりがちの中で生活習慣病を防ぐ簡単な運動方法の実演を行いました。



「Re:文字・音符・影」展

昨年11月8日(日)、コンピュータシステム学科の定國研究室およびアドバンスド教育「特別プログラム」受講者の有志チームが、月見の里学遊館(袋井市)で「Re:文字・音符・影」展を開催しました。画面に映る顔を楽譜上の音符に見立て演奏をする「ヒトノオト」や、カメラに映ったポーズの形を木の枝として画面に投影し、作った枝をつなぎあわせ大きな木を作る「木になる」など、インタラクティブデバイスを通し身体を使って操作するコンテンツを展示しました。



地域創成フォーラム

昨年11月17日(火)、ホテルクラウンパレス浜松にて、令和2年度地域創成フォーラムを開催しました。特別講演には、株式会社インテージの鶴田育緒氏に「“新しい日常”への兆し」と題し、新型コロナウイルス感染症の流行で変化した顧客心理について講演いただきました。また、本学のモータードライブ応用研究会、アグリクス研究会、金型技術研究会に所属する教員から研究活動の発表を行いました。

今年は三密回避のため、会場とオンラインの並行開催で実施いたしました。



コミセンDEお理工塾

昨年11月22日(日)、笠原コミュニティセンター(袋井市)で理科実験教室イベント「コミセンDEお理工塾」を開催しました。本学のお理工塾応援隊のメンバーが講師となり、袋井市内の小学5~6年生15名に「水をろ過してきれいにしよう」のテーマで実験講義を行いました。参加した子どもたちからは「水がろ過される理由」や「泥水で同じ実験をしたらどうなるか」など、質問が多く飛び、活気のあるイベントとなりました。



■2022年4月 理工学部土木工学科(仮称)を設置構想中

本学は、2017年に静岡県内の大学で初めて建築学科を設置し、この3月には第1期の卒業生を送り出します。また、2020年にはコンピュータシステム学科にデータサイエンス専攻を開設し、社会のニーズに応える人材育成を推進してきました。

これに続いて、2022年4月には、**理工学部土木工学科の設置を計画**しています。静岡県は交通の要所のため、大規模災害発生時には大きな影響を日本全体に与えます。その静岡をフィールドに、橋や道路などの老朽化と災害の発生に対する地域防災を学びます。また、GPS、AI、ドローンなどを使った3D技術、自動操縦など、最新の土木技術を利用した教育を行います。

静岡県での防災・減災の在り方、環境との融合、安全で快適な生活環境を考慮した社会基盤整備を担う土木工学技術者を育成します。まだまだ変わり続ける本学にご注目ください!



■静岡理科大学の「スゴい」「研究力」を5感で感じよう!!

進路イベントの日程【3月～7月】

- 大学見学会 3月25日(木)、5月23日(日) / 開催時間 13:00～16:00
学科説明、研究室見学、入試説明会、保護者説明会、個別相談など

※イベントの内容は変更となる可能性があります。詳細や参加申し込みは、本学受験生サイト (<https://www.sist.ac.jp/navi/>) からどうぞ!



活躍する卒業生

福寿製薬株式会社 合成研究部 **北川 紗央**さん (大学院理工学研究科材料科学専攻第19期修了生)

私は、化学の教員になりたい一心で静岡理科大学に入学しましたが、有機化学の授業や学生実験を経験し、その面白さに引き込まれ研究者を志すようになりました。

大学4年生からの3年間は桐原研究室で有機化学の研究を行いました。有機化学の反応は、未知の反応や危険な試薬なども多く、様々なことを学びました。また、大学院生時代には学会発表を経験し、実験結果のまとめ方や論文の書き方を学びました。

現在は福寿製薬の合成研究部で、治験薬の原薬や中間体を大量合成できる製法に最適化する実験をしています。研究開発のみならず取引先とのやりとりもあり、とてもやりがいを感じています。自分で作り上げた製法によって、工場で何十kgも合成出来たときは毎回嬉しくて鳥肌が立ちます。合成したものが新薬になり、陰ながらたくさんの人を助けることができるのはとても嬉しく思います。

今年度からはペプチド医薬品分野に参入し、主要メンバーとして少量受託合成できるところまで進めました。今後は、大量受託合成に向けて、引き続き丁寧でスピーディーな仕事ができるように精進していきたいと思っています。

同窓会 だより

■大学祭の様子を同窓会YouTubeに配信しました!

令和2年度のホームカミングデー中止に伴い、大学祭の様子をYouTubeで配信しました! クラブ・サークル団体の紹介や同窓生へのコメント、新型コロナの影響で変わった大学の様子などをお届けしています。今後、新たなホームカミングデーの開催や、実施検討中の25周年記念行事等、新しいSIST同窓会を築いていきますのでご期待ください。

■キャンパスニュースの発送回数変更について

SIST同窓会の会員増加に伴い、本キャンパスニュースの郵送費が同窓会会計を圧迫している状況です。そこで、令和2年度より発送回数を年2回(夏冬)送付から年1回(夏のみ)送付に変更させていただいております。57号については、58号と併せて令和3年に送付する予定です。

なお、引き続き大学HP内に、Web版の掲載を行っていますので、ご利用ください。

■同窓会各種SNSのお知らせ

最新の情報は、各種SNSにて配信していきますので、友だち登録よろしくお願ひします!



後援会 だより

■保護者懇談会の開催

昨年10月25日(日)に「保護者懇談会」を開催し、約160名の保護者の皆様に参加いただきました。新型コロナウイルス感染予防の観点から、「全体会」は中止とし、「学科別懇談会」を開催。各学科の教員紹介や授業の様子、カリキュラム、学業成績、就職状況等について説明があり、来場された方々は熱心に耳を傾けていました。また、Zoomを使用して、オンライン上でも視聴可能としたことで、当日来学できない保護者の方も参加されました。

「個別面談(希望者のみ)」には約70名の保護者が参加され、修学状況や就職活動状況、学生生活等助言教員と直接相談ができる貴重な機会となりました。

サークル紹介

自動車部 — SIST Formula Project —

チームリーダー 岡本 一茂さん(機械工学科3年)

SIST Formula Project略してSFPです。毎年9月にエコパで開催される学生フォーミュラ日本大会に向けて車両を一つから開発・設計・製作しています。大会では車両の走行性能を競う動的審査5種目だけでなく、デザインなどの静的審査3種目との合計点で順位が決まります。速い車両を設計製作するだけでなく、なぜその車両が速いのか理論と走行テストで検証し、説明することが求められます。2021年大会に向けて現在車両を鋭意開発中です。

自動車部では、3次元CADソフトを使用して車両を開発設計製作し、完成した車両を走行させ評価を行います。これにより、モノ作りの開発プロセスを深く学ぶことができます。また、スポンサー企業の方々とやり取りをすることで、ビジネスマナーも身につきます。

2021年大会に向けて、チーム歴代最高順位である総合順位8位を超えることを目標に、日々活動を行っています。興味のある人は、私たちと一緒に学生フォーミュラ日本大会に出場しましょう!



スポットライト
がんばる理工科大生

播磨 宏哉さん(コンピュータシステム学科4年)

私は「シビックパワーバトル」という、オープンデータを利用して各市町村の魅力を発表し競うイベントに、袋井市の代表として研究室メンバーの3人で参加をしました。このイベントに参加した理由は、大学のある袋井市についてほとんど知らなく、イベントを通じて袋井市の様々な魅力を知ることができるのではないかと考えたからです。



発表資料を作る際に、「魅力を伝えるための説得力を持ったデータ」を収集するため、給食センターに直接行って取り組みについてなどのお話を伺うなど、自分の足で様々な現場に赴き、情報を収集しました。袋井市の合計特殊出生率や人口増加率の高さ、給食センターでの食育の取り組みやチャットボットによる対応などを基に発表を行い、「袋井市は子供から大人まで環境が充実しており、生まれてから老後まで袋井市内で完結できるぐらい住みやすい街」という袋井市の魅力を、説得力を持ってアピールすることが出来ました。

結果は惜しくも最優秀賞を逃しましたが、CPA賞という主催者賞をいただくことが出来ました。またこのイベントを通して袋井市や各市町村の魅力を知ることができ、地元静岡がより好きになりました。

編集後記

この1年は世界中がコロナウイルスに苦しめられ、そのような中でもキャンパスニュースを発刊できたことはありがたく感じております。本学でも前期は全面オンライン授業でしたが、おかげさまで後期は対面授業を再開し、密を避けながらも学生がキャンパスに帰ってきました。1年生の皆さんは9月になってやっと大学に来ることができました。ただ個人的に厳しいのが皆マスクをして過ごしておりますので、もう何か月も一緒に過ごして声も性格もわかってきたのにまだ顔を見たことがない!! 学生さんもいるのです。これは今までにない経験で、勝手に想像しながらすごしています。早く笑顔が見れるといいなあ…。(T)

静岡理科大学キャンパスニュース

令和3年1月28日発行

企画・編集・発行 / 静岡理科大学 大学広報委員会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

<https://www.sist.ac.jp> E-mail:shakai@sist.ac.jp

